

環状七号線が混みだすにはまだ早い時刻だった。夜明けまではあと二時間近くあり、疾走する車は大半がタクシーか大型のトラックばかりだ。

鮫島が尾行しているのは、BMWの一台おいた先を走るライトバンだった。大久保二丁目のアパートの前からイラン人を二人乗せて走り出したのが三十分ほど前だ。ひどく冷えこむ晩で、足立区に入ってから道路の左右にちらほら見えるようになったむきだしの地面には、白く霜が降り、ヘッドライトの光を細かに反射している。

約二ヶ月前、年が明けてすぐ、新宿署と警視庁保安課は、歌舞伎町並びに大久保駅周辺の街娼を対象にした一斉摘発をおこなった。これには東京入管も加わり、出入国管理法及び難民認定法、売春防止法違反などの現行犯で十名以上の外国人売春婦を検挙した。

彼女らの大半は、百人町や大久保などのアパートに住み、「職場」へ、徒歩や自転車などで通っている。そのアパートを搜索した際に、鮫島は奇妙な一致に気づいたのだった。

搜索の本来の目的は、コカインや大麻、拳銃など、「行きがけの駄賃」狙いのものだった。

が、案に相違して、彼女らはそうした麻薬類などをさほど所持してはいなかった。

数名、部屋から大麻やハシシ、偽造テレホンカードが発見された者もいたが、それらはいずれも本人の所有物ではなく、ポン引きなどをつとめる男たちからの預かりものだった。もちろんその男たちは、自分の抱えていた女が逮捕されたのを知るとあとかたもなく姿をくらまし、アパートには寄りつかない。彼らの大半も日本人ではなく、出身地も、中南米や中東、東南アジアとわかれている。が、男も女も、いまや日本全国に友人、親戚がおり、いざとなれば何カ月も新宿を遠ざかっていることが可能なのだった。

鮫島が気づいた一致とは、彼女らの部屋にあった電気製品だった。ラジカセやヘッドホンステレオ、小型の冷蔵庫などだ。

外国からやってきた売春婦たちは、通常、最初は地方のスナックなどで管理売春を課され、年期が明けると、東京に流れてきて街娼としてひとり立ちすることが多い。

東京にでてきて初めのうちは、出身地の同じ者や友人の友人などを頼って、すでに新宿生活の長い先輩の部屋に居候したりするのだ。

生活に必要な最低限の品は、その間に少しずつ買いためていく。地方での管理売春に従事しているときは、一種の寮生活で、そうした品が必要ないからだ。

本来、彼女たちが手に入れるのは、ビザ切れや強制送還、あるいは目標の金額を稼いで帰国する仲間たちから譲られる、中古製品である。中には、二代目、三代目を経由した、かなり年期の入ったテレビや冷蔵庫などもある。

だがこのとき、鮫島が何人もの女たちの部屋で見たのは、新品のラジカセと小型冷蔵庫だった。しかもそれらはすべて同じ製品だった。

共通点はもうひとつあった。所有している女たちが、いずれも観光ビザの切れていない、来日してから比較的短期間の滞在者であるということだ。

共通する電気製品は、十数台にのぼった。これは奇妙なことだった。それらのラジカセや冷蔵庫が、他のメーカーの同機種に比べ、特に安価というわけでもなく、また近くの電器店やデイスカウントショップで大量に販売された形跡もないことも鮫島はつきとめた。

彼女らに、これらの製品を、いつ、どこで購入したかという質問を向けると、いずれも知らないに紹介されたイラン人から買ったという答えが返ってきた。

そのイラン人の名はジョーで、これは通り名のようなものである。

やがてこれらの電器製品が、昨年、秋葉原あきはばらの大型店倉庫から大量に盗難された品と一致することが判明した。盗難品の手配書である品触しんぶくれに記載されていたのだ。

鮫島は内偵を始めた。

その結果、電器製品を中心にした大がかりな窃盗品密売グループの存在が浮かんた。

彼らの商売は巧みで、尚かつ女たちの生活に密着していた。

東京にやってきた外国人売春婦たちはまず、電器製品が必要なら「ジョー」というイラン人に会え、と先輩などに教えられる。「ジョー」とは、彼女らが息抜き場として利用する、ラテンディスコや深夜レストランなどで接触できる。

「ジョー」は、新米の彼女らの身許を確かめたあげく、大久保二丁目にあるアパートの一室に連れていく。そこには、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、ラジカセ、ステレオ、電話機などの、さまざまな家電製品が揃そろっていて、家具も配置され、さながらショールームの感がある。そして必要な品を女たちが指定すると、「ジョー」は頭金なしの分割払いで売ってくれるというのだ。

分割払いといっても月賦ではない。払いは三日おき、あるいは五日おきである。代金は、通常のディスカウンド店より、さらに一、二割安いので、さほど負担にはならない。女たちはおおむね、ひと月からふた月で支払いを終える。

支払いを滞とどらせるのは、よほどの理由がない限り難しい。病気か、逮捕でもされない限り、「ジョー」は待つてくれない。また、体で支払うのは、一回に限っては有効だが、それも金額による。また、支払いをせず品物をもって逃げれば、制裁が待っている。あるコロンビア人女性がそれをしたが、九州の温泉街にいるところを連れ戻され、十人以上に輪姦されたあげく、片耳を落とされた。

「ジョー」が扱っているのは、あくまでも電気製品のようなものだ。「ジョー」はショールームから直接品物を運びだすことはせず、指定をうけた数時間後に、客のもとへ届けるのだ。

鮫島は、ショールームとは別の、倉庫があることにらんでいた。ショールームにあるのは、正規の手段で購入した在庫品の同機種で、かサ入れをくつても犯罪の証拠にはならない。倉庫にこそ、大量の盗品がおかれ、「ジョー」はそこへ品物をとりにいつているのではないか。

前をいくライトバンには、二人の「ジョー」が乗っていた。いずれもイラン人で、ひとりは 4

本名がアブー・アジとわかっている。偽造テレホンカードの大量所持で逮捕歴がある。助手席5にいるほうだ。

二人の上には、別の人間がいる筈はずだった。ショウルームの用意や倉庫を借りている点から考えても、四、五名以上のグループであるし、資金力も備わっている。たぶんグループのリーダーは、電気製品の他にも、扱っている品がある筈だ。もちろん、そうした品を同じ倉庫に持っているわけではないが、倉庫をつきとめ、その借り主を洗いだせば、組織の全体像があるていど見えてくるだろう。

「ジョー」たちは、きのうの早朝、ファミリーストランで接触をうけたコロンビア人女性の客を、夕方ショウルームへ連れていったところだった。これから倉庫に行き、指定された商品運びだすにちがいない。

二ヶ月に及ぶ内偵が、ようやく大きな獲物の巣へと案内してくれるところまでできていた。この窃盗団が、はたしてイラン人だけによって組織されているのか、資金面などでの援助を与えているパトロンがいるのかをつきとめられる。

この続きは、書籍でお楽しみください。

◎注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償に拘らず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製等の違法行為、もしくは第三者へ譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。